

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 667 号	氏名	森 篤史
学位審査委員	主 査	柳原克紀	
	副 査	大園恵幸	
	副 査	酒井英樹	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 骨格筋量の減少は、腎不全において潜在的に進行し、血液透析患者の quality of life(QOL)や予後に関連する因子である。一方、末期腎不全に伴う二次性副甲状腺機能亢進症に対して投与される活性型ビタミン D(VitD)は筋肉の成長と発達に重要な役割を果たす。 本研究は VitD 投与が筋肉量や QOL に与える効果を前向きに検討したものであり、目的は妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 単施設で維持血液透析中の 68 名(男性 28 名・女性 40 名)を対象とした。VitD を投与した群と Control 群に分け、筋肉量と健康関連 QOL を評価した。筋肉量は、バイオインピーダンス法を利用したデュアル周波数体組成計で測定し、QOL の評価はアンケート調査にて行った。これらの対象および方法は十分に妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 本研究の結果より、男性血液透析患者に対する VitD 投与は、筋肉量を増加させる可能性が示唆された。一方、女性血液透析患者では、筋肉量の変化に影響を与えなかったが、QOL を改善するデータが示された。これらの結果から、血液透析患者における VitD 投与は、二次性副甲状腺機能亢進症の治療薬としてのみならず、筋肉量や QOL の維持に有効である可能性が示唆された。</p> <p>以上のように本論文は血液透析の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			